

農業委員会だより No.63

日野町議会との合同研修会を開催

2月7日、公益財団法人鳥取県農業農村担い手育成機構の上場重俊^{うわば}理事^{しげとし}長を講師に迎え、「農地中間管理事業と農業委員会の連携について」をテーマに、町農業委員会と町議会との合同研修会を開きました。研修会では、上場理事長が農地中間管理事業の役割や目的について講演を行いました。

研修会終了後は町議会と「日野町の農業の課題と今後の取り組みについて」をテーマに意見交換を行いました。議員や農業委員、農地利用最適化推進委員から今後の日野町の農業について活発な意見が交わされました。今回の合同研修会や意見交換会でいただいた意見を、今後の農業委員会活動に生かしていきます。



今後の農業のあり方について活発な意見交換

平成28年度農業委員会特別研修会



「農地を守り活かす！地活推進全県運動の新展開」をテーマに、農業委員会特別研修会が、2月23日、琴浦町のカウベルホールで開かれました。日野町からは農業委員と農地利用最適化推進委員および事務局が参加しました。

研修会では、「新たな農業委員会制度と農地利用最適化の推進について」と題し、京都府立大学生命環境法学部准教授の桂 明宏さんが記念講演を行いました。また、「新たな農業委員会組織としての取り組みについて」をテーマに課題研修も行われました。同研修では、日南町農業委員会と日野町農業委員会が、新制度に移行した農業委員会の日ごろの取り組みについて発表しました。他市町村の事例なども参考にしながら、町の特色を生かした取り組みを進めていき

取り組みを紹介する長住武美会長 ます。

農地を取得する場合には下限面積が定められています

農地を取得しようとする人は、一定の農地を所有する必要があります。取得しようとする農地が存在する地区によって下限面積が定められています（農地法第3条第2項第5号）

下限面積	地 区
30 a	根雨、黒坂
40 a	下榎、貝原、三谷、高尾、金持、板井原、濁谷、門谷、秋縄、三土
50 a	小原、別所、榎市、本郷、津地、野田、舟場、安原、下黒坂、久住、中菅、下菅、小河内、上菅、福長

ご存じですか『農業者年金』

農業者年金は、農業に従事する人の老後をサポートする年金です。

- ① 農業従事者が幅広く、一人一人の年金を掛けられます。
- ② 『積み立て式』の年金制度です。
- ③ 保険料は、一口・月2万円。最大6万7千円まで自由に選べ、途中で変更もできます。
- ④ 支払った保険料は、全額が社会保険料控除の対象になります。

▶ 詳しいお問い合わせは、農業委員会（電話 72-2103）または農協窓口（電話 72-0305）まで

学校評価についてお知らせします。

▶教育委員会平成 28 年度学校評価

平成 19 年 6 月の学校教育法の改正により、「学校評価の実施による学校改善」と「学校の情報の積極的な提供」が義務づけられ、学校の教育水準の向上と地域に開かれた学校づくりが求められています。

学校評価の実施手法には、『自己評価（教職員）』『学校関係者評価（保護者・地域住民など）』『第三者評価（外部専門家など）』の 3 つがあります。今回は、昨年度に各学校が行った『学校自己評価』結果について学校別にお知らせします。

【評価基準】 A = 達成できた（85 点以上） B = だいたい達成できた（60 ～ 84 点）
C = 達成状況が不十分（40 ～ 59 点） D = 達成できなかった（39 点以下）

(1) 黒坂小学校（抜粋）

評価項目	具体項目	目的の達成状況	自己評価
学力の向上	言語活動の充実	・課題解決に向けての流れをサイクルノートに書けるようになった。 ・友だちの意見を受け入れる学級づくりが進んだ。	A
	指導と評価の一体化の充実	・毎時間の課題やめあてを明確にした授業計画を立て、児童と課題を共有することで課題解決に向かう姿勢が身に付いた。 ・以前より、理科学習に対する興味が高まった。	B
体力の向上	体育学習や業間体育の充実	・アスレチックタイムの縄跳びやマラソン、短距離走の計測、放課後水泳、陸上などを通し、体力の向上が見られた。 ・校内や町のマラソン大会に、意欲的に取り組むことができた。	A
体験活動	豊かな体験活動・交流活動の充実	・日野高校との交流が特色もあり、ほかにはない経験ができています。 ・地域の自然、歴史などを活用した体験活動の機会が増えた。	A
人権・特別支援教育、生徒指導	人権教育・特別支援教育・生徒指導の推進	・自己肯定感を高める取り組みができ、成果が上がった。 ・各種大会での応援など、友だちを励まそうとする児童の姿が認められるようになった。 ・問題が起きたときの職員の共通理解がしっかりできた。	B
家庭・地域の連携	基本的な生活習慣の定着	・あいさつはしっかりできている。	B
	地域との連携の推進	・納涼まつり、ふれあいまつり、町駅伝大会などへの参加で、地域を愛する心情がしっかり育っている。	A
	家庭学習の推進	・自主学習の取り組みが全校体制になり、効果が上がってきた。	B

(2) 根雨小学校（抜粋）

評価項目	具体項目	目的の達成状況	自己評価
学力の向上	指導法の改善	・チャレンジタイムなどに視写の時間を取り入れることにより、書く速さのスピードアップにつながるとともに、書くことへの抵抗が減った。 ・少人数指導による効果はあった。能動的に授業に取り組む児童が増えた。	A